

生活保護利用164万世帯

高齢者世帯の9割が単身世帯

昨年11月

昨年11月の生活保護利用世帯は163万6

952世帯で、1年前と比べて2450世帯少なくなったことが6日までに、厚生労働省の調査でわかりました。また、生活保護を利用する高齢者世帯の9割が単身世帯である

など、単身世帯のなかで生活困窮が広がっている実態も浮き彫りになりました。

昨年11月の生活保護利用世帯を、世帯類型別(保護停止中を除く)にみると、高齢者世帯は、前年同月より1万4745世帯多い89万7003世帯でした。全利用世帯の55・1%

を占めました。

このほか、母子世帯8万1083世帯、障害者世帯20万3684世帯、傷病者世帯20万4634世帯、その他の世帯24万2407世帯でした。

生活保護を利用する高齢者世帯のうち91・6%は、単身世帯(82万1304世帯)でした。2017年度の調査によると、生活保護を利用する単身世帯の割合

合は、高齢者世帯だけでなく、障害者世帯84・5%、傷病者世帯80・2%など他の世帯類型でも多い実態があります。こうした生活保護の現状は、親族からの経済的支援を得られにくく、社会的に孤立しがちな単身世帯ほど、低賃金や低年金による生活のもつで、心身の病気や障害、加齢によって生活困窮に陥るリスクが高いことを物語っています。